

【支部活動報告】

戦国武将真田氏ゆかりの地を訪ねて

長野支部 小宮山和俊

平成28年度長野支部恒例の小旅行は、信濃の小豪族から身を起こし戦国大名に上りつめ、天下にその名を轟かせた真田三代(図1)ゆかりの「真田の郷と上田城」を散策をすることとした。

好天の10月13日総勢10名、真田一色に染まった上田駅に9時30分に集合、しばし互いに旧交を温めた後、観光タクシー2台に分乗し、真田の郷(上田市真田町)へ向かった。まず、真田一族にまつわる貴重な資料が展示されている「真田氏歴史館」を訪ねた。知略

に長け、真田家を発展させた幸隆(1513~1574)をはじめ、二度も徳川の大軍を撃破した武将昌幸(1547~1611)、その長男信幸(1566~1658)、次男の信繁(1567~1615)らの活躍の歴史が古文書や武具等で紹介されていた。館内の展示物は豊富で1時間弱の見学時間では足りないほどであったが、時間の制約もあり、次の「真田氏本城跡」へと車を進めた。

この本城跡は、真田の郷の中心部に位置し、規模が大きく水利もあることから、昌幸が上田城に移るまでの真田氏の本城であったと言われている。上田盆地を一望できる丘一帯には土塁や郭跡が残り、傾斜地形を生かした巧みな築城技術が偲ばれる。また、この地は大河ドラマ「真田丸」の第3話、信繁が幼な馴染みの“きり”に簪を渡したシーンのロケ地でもあり、新たな注目を浴びている。ここで、集合写真のシャッターを押した。(図2)

次に、幸隆が開祖した真田氏の菩提寺「長谷寺」(ちょうこくじ)を訪ねた。杉の大樹に囲まれた山寺で真田家の家紋「六文銭」が刻まれた巨大なアーチ型の石門をくぐり、急傾斜の階段を登った所に建立されている幸隆夫妻および昌幸のお墓を参拝した。

ほぼ予定通り午前中の行程を終え、空腹感を我慢しながら真田の郷を後にし上田城下へ下り、格子造りや蔵造りなど昔ながらの街並みが残る旧北国街道沿い(上田市柳町)の老舗「蕎麦屋大西」に立ち寄り、アルコールと十割蕎麦を口にしながら脚の疲れを癒した。休むこと1時間強、皆、健脚も戻り足取り軽やかに、本日の最終目的地である「上田城址」へと歩を進めた。

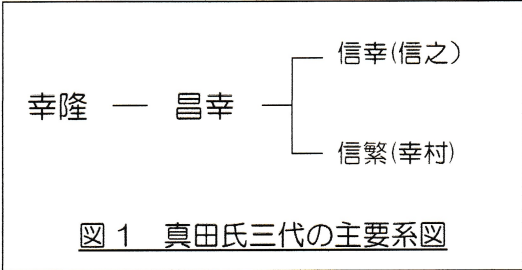


図1 真田氏三代の主要系図



図2 真田氏本城跡前にて

前列左より伊部, 池田, 後列左より工藤, 丸山, 近藤, 小宮山, 北山, 矢島, 水野, 北島(敬称略)

真田石

上田城は天正11年(1583)昌幸によって築かれた上田盆地のほぼ中央に位置する平城で、千曲川(その分流尼ヶ淵)に面する段丘の崖を利用した全国でも稀な名城である。

昌幸はこの城を拠点に二度にわたって徳川の大軍を迎撃し(1585, 1600の上田合戦)、戦略に長けた武将として、敵軍にも一目置かれていたが、西軍に加担した関ヶ原の戦い(1600)で敗れ、昌幸・信繁父子とも紀伊国九度山に配流になり、同年上田城は徳川軍に完全に破却された。その後、寛永3年(1626年)、時の信濃上田藩主 仙石忠政により復元建築され、以降も逐次修復が施され、現在に至っている。

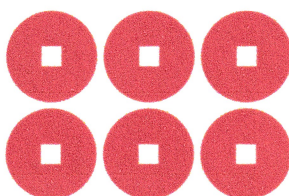


図3 本丸の東虎口(城の出入口)前にて
前列左より水野, 伊部, 工藤, 北山, 後列左より
小宮山, 矢島, 池田, 北島, 近藤, 丸山(敬称略)

城址内の真田神社をまず参拝し、県宝に指定されている「西櫓」、抜け穴として利用された「真田井戸」、直径3mの城内一の大石「真田石」(図3)など知略昌幸のいくつかの遺構を観て廻った。最後に「真田丸大河ドラマ館」に入館、NHKドラマ「真田丸」の世界を改めて体感し、上田城址を後にした。

ゆっくり徒歩で20分程、旅の出発地点上田駅に無事戻り、次回の再会を期し、帰宅の途についた。

以上
2016.11.30



上田城のさくら

